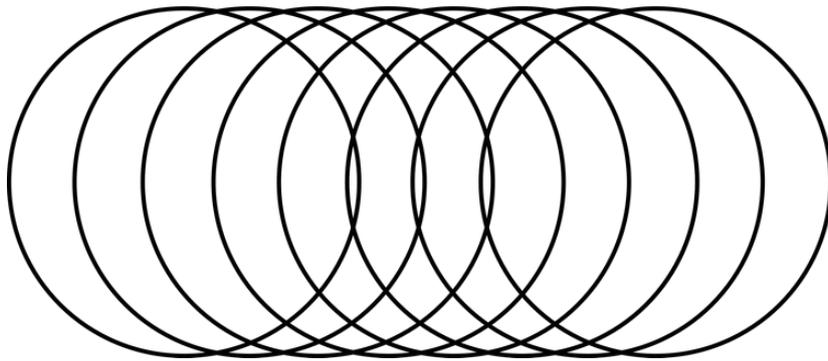
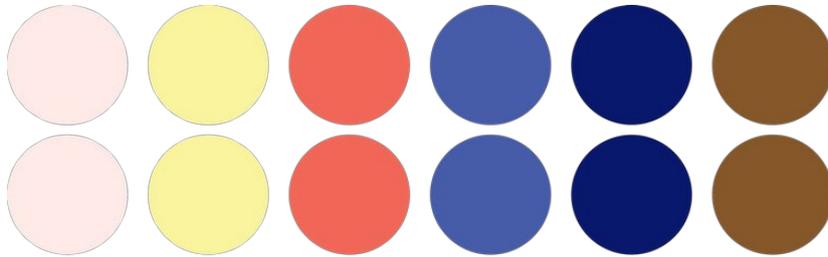


Discomfort Designs



Queasy Feels

日本語マニュアル

<https://umbrella-company.jp>

INTRODUCTION

Queasy Feels との果てしない駆け引きの世界を体験してみたい？

静けさというのも.....まあ悪くはない。もちろんね！

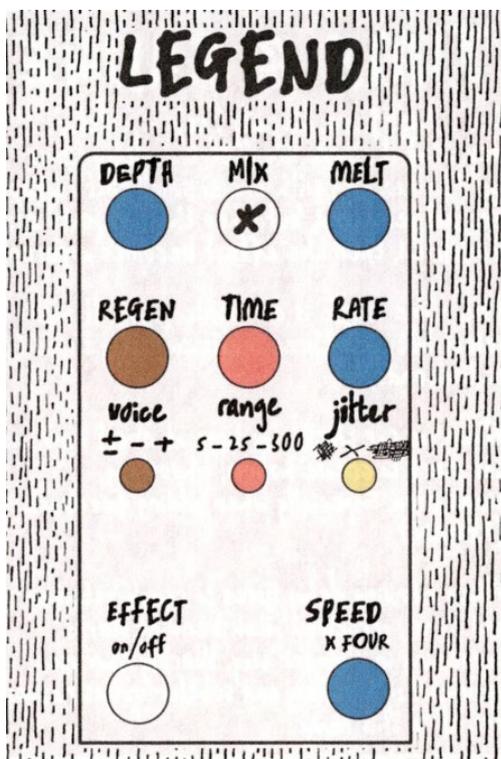
でも、ときには物事をかき乱してみる必要もあるかもしれない。そんなときの答えが、**Queasy Feels** だよ。

私たちは完全なカオスを望んでいるわけじゃない。少なくとも、そこまでではない。

でも、動きや予測できなさ、そして自分では完全にはコントロールできない形で物事が変化していく感覚は、なんというか惹きこまれる感じがするよね。

もちろん、繊細さが必要な場面ではきれいに演奏することだってできる。

でも、動きに“疑い”を組み合わせると、思いがけない笑顔が生まれるかもしれないから試してみてほしいよ。楽しんで！



CORE CONCEPT

本質的に言えば Queasy Feels はモジュレーション・ペダルです。

ただし、一般的なエフェクトのように「これは〇〇です」と簡単にラベル付けできる単一の効果を提供するものではありません。むしろ、従来の名前と呼ばれてきたモジュレーション・スタイルのあいだを、ゆらゆらと漂うように行き来できるペダルなんです。

フランジャーが欲しい？ いいでしょう。

コーラスが必要？ それもオッケー。

モジュレーション付きディレイ？ どうぞ、やってみてください。

でも少しだけ耳を傾けてみてください。

タイム、デプス、そしてリピート関係をぼかしてしまうと、サウンドはぐっと面白くなります。

そこに少しの余裕、弾力、あるいは非対称性を持ち込むことで、新鮮な感触が生まれるのです。

というわけで、ここからがこのペダルの「不安定な領域」です。

Queasy Feels を「設定して使うエフェクト」と考えるのではなく、「付き合い方を学ぶ状態」のようなものだと思ってください。

いつ逆らうのか。

いつ自由にさまよわせるのか。

そして、いつ完全に一步引くのか。

それもすべて、この体験の一部です。

楽しんでください！

TIME & RANGE

まずここから始めましょう。

Queasy Feels は本質的にはディレイ・デバイスです。

ただし、このペダルで扱うディレイタイムの多くは非常に短く、通常のディレイのように「リピート音」としては知覚されません。

しかし、そのリピートをモジュレーションすると、エフェクトとしての興味深い変化が現れるのです！

Range トグルはこのペダルの中心的なコントロールです。

3種類の最大ディレイタイム（ミリ秒）を選択します。

ディレイタイムを約 5ms までに制限すると、中が空洞のような、シュワツとしたモジュレーションが作れます。特にフィードバック（REGEN）を加えると効果的です。

ディレイタイムが 5~25ms の範囲に入ると、ピッチが曲がるように感じられる効果がより強く現れます。揺らぐコーラス、とろけるようなビブラート、そして微妙な“気持ち悪さ”のニュアンスも、このレンジの中に含まれています。

トグルを一番上の 500ms レンジにすると、ついにリピート音がはっきりと聴こえ始めます。ここがエコー、ディレイ、リピーターといった効果が現れる領域です。この段階では、REGEN ノブがリピートの回数を決めます。

本当の面白さは、このディレイされた信号をモジュレーションしたときに感じられます。

DEPTH & RATE

ディレイタイムのモジュレーションは、サイン波形の LFO によって行われます。

DEPTH ノブはモジュレーションの量を決め、RATE ノブは LFO の動くスピードを決定します。

DEPTH ノブはレンジトグルと連動してスケーリングされています。

そのため、短いディレイタイムのレンジではより大きな DEPTH 設定を使うことができ、長いディレイタイムの設定では DEPTH が抑えられるようになっています。

RATE ノブを完全に反時計回りまで戻すと LFO は完全に停止します。

RATE ノブには非常に遅い設定も多数用意されていますが、SPEED スイッチをオンにすると現在のレートが 4 倍になり、高速領域まで上げることができます。

REGEN & VOICE

このペダルのディレイラインにはフィードバックループが組み込まれています。

REGEN ノブは、ディレイラインの信号をどれだけ回路へ戻すか（フィードバックさせるか）をコントロールします。

このフィードバックは反転させることもでき、そのままにすることもでき、あるいはその 2 つの状態のあいだを自動的にクロスフェードさせることもできます。

ここで VOICE トグルは冒険の重要な役割を果たします。

JITTER

Jitter は、Queasy Feels を使うたびに、あなたのサウンド体験をユニークなものにする機能です。

基本的なコンセプトは、ペダル上のさまざまなパラメータに対してわずかにランダムなモジュレーションを加えることです。まるで、それぞれ勝手な意思を持った小さな手がいくつも動いているようなイメージです。

6つのノブでコントロールされているすべてのパラメータが、Jitter の影響を受けます。

3ポジションのトグルスイッチで

- 少量のジッター
- ジッターなし
- 強いジッター

の3タイプを選択できます。



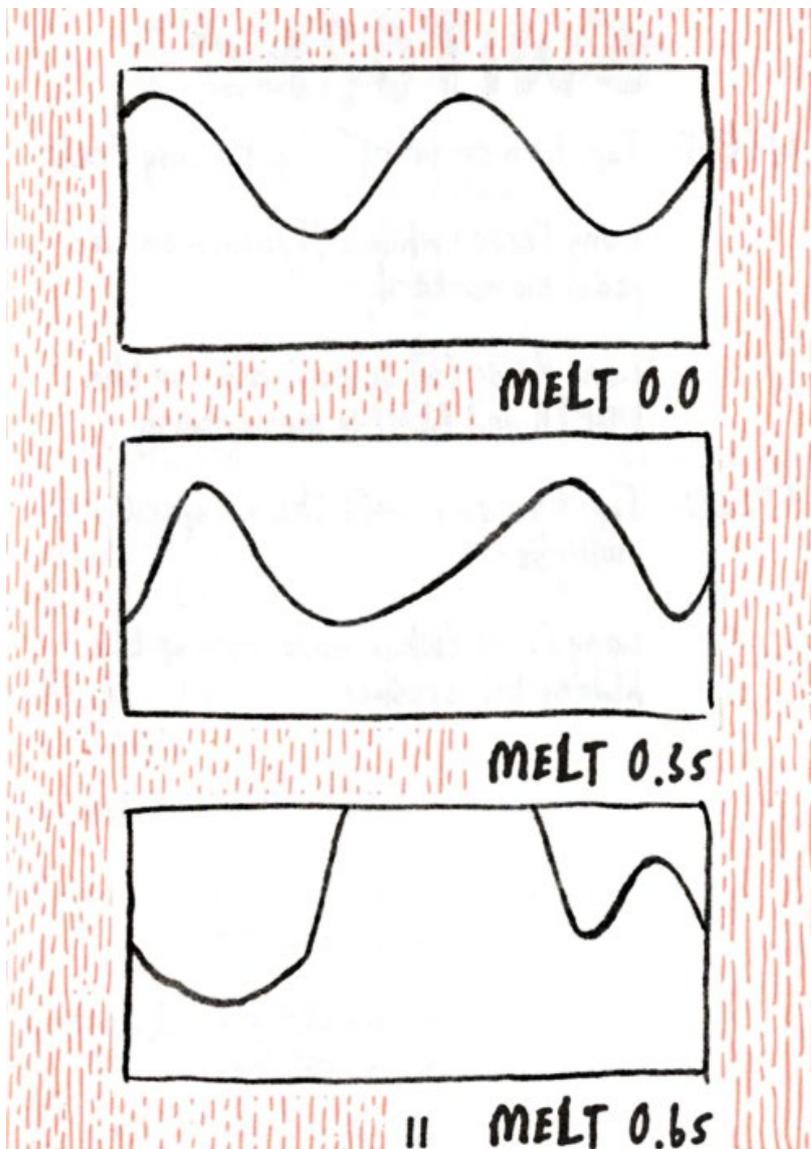
MELT

MELT ノブは、LFO を少し乱すような動作を加えられる不思議なノブです。

低い設定では、サイン波の形が少し非対称になります。

さらに上げていくと、LFO の波形はより崩れていきます。

ノブが中央を超えるあたりからは、LFO がモジュレーションの周期そのものをスキップし始めることがあります。



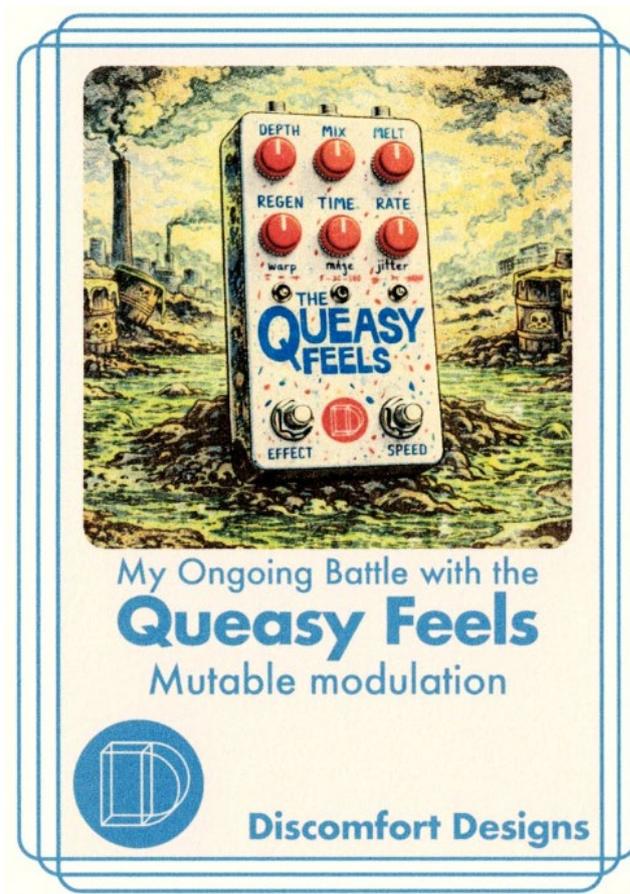
SWITCHES

EFFECT

- タップ：ペダルのオン/オフ
- 長押し（オフ時）：モーメンタリーでオン
- 長押し（オン時）：DEPTH と REGEN を一時的に上昇

SPEED

- タップ：×4 スピード倍率のオン/オフ
- 長押し（オン時）：隠し機能のビットクラッシャーを強くする



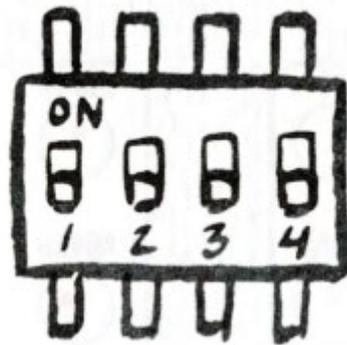
STEREO USE

このペダルはモノラルまたはステレオ入出力で使用できます。

TRS ケーブル、またはスプリッターケーブルを使用してください。

デフォルト設定はモノラル入力/ステレオ出力です。

内部 DIP スイッチで設定変更できます。



スイッチ 1

OFF = MISO モノラル入力/ステレオ出力

ON = SISO ステレオ入力/ステレオ出力

スイッチ 2

OFF = ステレオワイドニング OFF

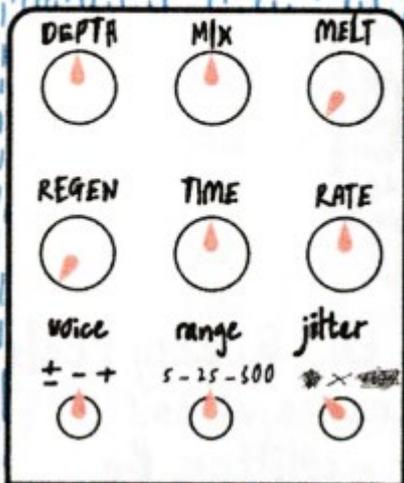
ON = ステレオワイドニング ON

スイッチ 3

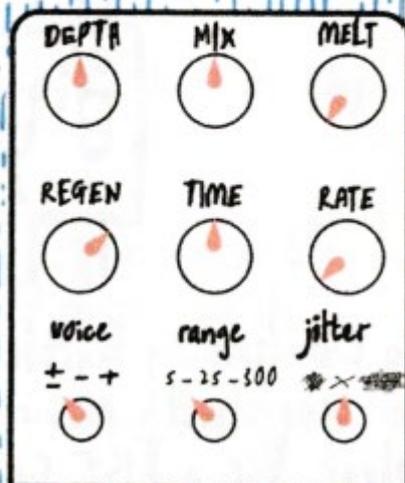
OFF = モジュレーション反転 ON

ON = モジュレーション反転 OFF

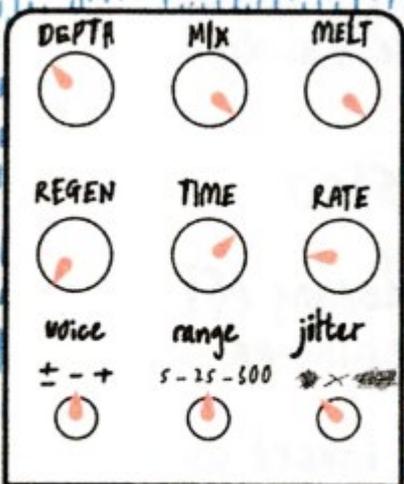
IDEAS



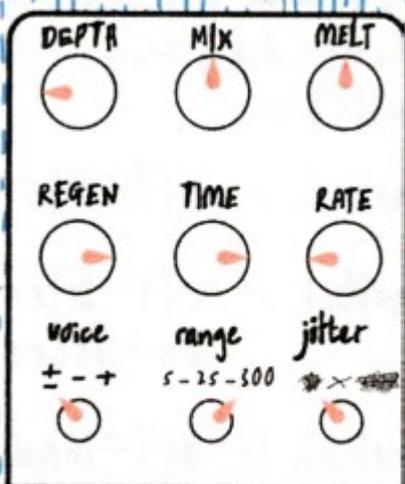
Unstable Chorus



X-Fade Jetter



Rando-Vibe



Tunnel Delay

CONCLUSION

ここまで読んできたなら、きっと一番大事なことに気づいたはず！

このペダルには「これがベスト」という使い方も、「これが最終設定」というものもないのです。

Queasy Feels は決して完全に落ち着くことはありません。

それこそが、このペダルの魅力です。

ある日は素直に振る舞い、わずかな動きと、かすかな不安定さを与えてくれるでしょう。

またある日は反抗し、不確かさを主張し、あなたにいつもとは違う聴き方を求めてくるかもしれません。

手放して、さまよい、夢見るように接してみてください。

最高の瞬間って、きっとそういうときに訪れるものなんですよ。

すべてが確かすぎると感じる時に使ってください。

音の輪郭が整いすぎている時に使ってください。

曲が「まっすぐ立つ」のではなく「少し傾く」必要があるときに使ってください。

そして、その動きが少し不快に感じられたときでも、もう少しだけそのままいてみてください。

たいてい、お気に入りの“フィール”は、そんなところにあたりもするよね。

my continuing
battle with the
**QUEASY
FEELS**